



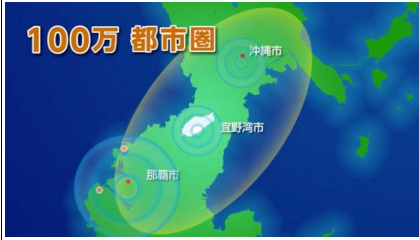

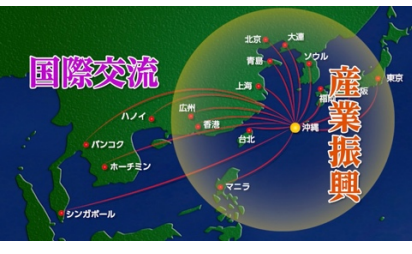
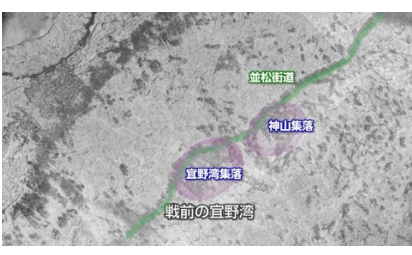





(6) 今年度制作のPV構成・演出のポイント

表IV-1 今年度のPV構成・演出のポイント

章	cut	TIME	映像	ナレーション	シナリオ
0. プロローグ（これまでの取組内容の紹介）					
	01			はいたいぐすーよちゆうがなびら 普天間飛行場跡地がまちになること。 それは、沖縄が発展する大きなチャンスです。	・駐留軍用地跡地利用の必要性 (沖縄の新たな発展)
	02			普天間飛行場跡地は、今後、返還が予定されている 中南部の基地の中央に位置しています。	・駐留軍用地跡地利用の必要性 (県土構造の再編等)
	03			沖縄の玄関口である那覇空港や那覇港から 内陸部をとおり北部へつながる軸。	・沖縄21世紀ビジョンを踏まえた沖縄の未来を表現 (広域的に結ぶ骨格道路や体系的な幹線道路網の整備等)
	04			共にコンベンションやレクリエーション施設を活用した、リゾートを目指す「西海岸」と「東海岸」をつなぐ軸。	
	05			このクロスポイントとなる普天間飛行場跡地が、まちになると、これまで分断されていた中南部の100万都市圏がひとつにまとまります。	

<p>06</p>			<p>2015年1月に沖縄県が発表した予想によると、 周辺の跡地利用とも連動して、大きな経済効果を生み出します。</p>	<p>※駐留軍用地跡地利用に伴う経済波及効果等に関する検討調査(平成27年1月)</p>
<p>07</p>	<p>1分 13秒 / 1分 13秒</p>		<p>ここに、世界につながる国際交流と産業振興の拠点を置くことで、アジアの交易の中心になるのです。</p>	
<p>08</p>			<p>この地には、かつて集落がありました。 緑の森があり、家々が軒を連ね、人々の普通の暮らしがありました。</p>	
<p>09</p>			<p>米軍の基地になり、集落や暮らしは消えてしまいました。</p>	
<p>10</p>			<p>戦後、基地の周りに移り住むことを余儀なくされ、いびつな都市になっていきます。</p>	
<p>11</p>	<p>47秒 / 2分 00秒</p>		<p>一方、基地の中には、時間が止まったように、戦前の姿のままの森や、かつての暮らしの痕跡がまだ残されていたのです。</p>	

12			<p>この、基地に残る昔の暮らしを活かしながら、新しいまちをつくったらどんな風景になるでしょう。</p> <p>これまで、エリア毎に新しいまちをイメージしてきました。</p>	
13			<p>中央エリアでは水と緑のつながり、沖縄らしい気候風土と調和するまちを</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普天間飛行場跡地利用の過年度PVの紹介</li> <li>・中央エリア: 世界に誇れる環境づくりを目指した4つのコンセプトを表現</li> </ul>
14			<p>北側エリアでは歴史や文化、先人の知恵から学び、周辺の跡地利用と連携して、さまざまなコミュニティを創り出すまちをイメージしました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北側エリア: コミュニティの再生・創生を3つの視点で表現</li> </ul>
15			<p>今回は、主要な道路が交差するアクセス条件の良い南側エリアを中心に、</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度のPV特徴を説明(アクセス条件を活かした土地利用、沖縄振興・国際交流の舞台となる拠点形成イメージを表現)</li> </ul>
16	55秒 / 2分 55秒		<p>沖縄振興の舞台となる新しいまちをイメージしてみます。</p>	

1. 風土に根ざした琉球の文化(シマの基層)を踏まえた土地利用計画

17			<p>まちづくりで大切にしたいのは、いにしえから、ここに住む人々の生活に深く関わっていた「地下の水脈」、「土地の形」、「森の緑」、「歴史や文化」です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・跡地の特性である「水」、「地形」、「緑」、「歴史」などを活用した土地利用</li> </ul>
----	--	---	---	---

<p>18</p>			<p>かつての集落の様子を、古い写真などを参考にしながら、</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原風景模型制作から得られた知見と跡地利用計画への反映</li> </ul>
<p>19</p>			<p>模型で再現してみました。</p>	
<p>20</p>			<p>また、地元の方々と基地周辺を巡り、戦前、ここで、どのような生活をしてきたかを探りました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まぢま〜いを通して得られた歴史・文化資源の知見の活用</li> </ul>
<p>21</p> <p>42 秒 / 3 分 37 秒</p>			<p>これらの取り組みを、新しいまちの緑地や広場、住宅などの参考にしながらイメージしてみましょう。</p>	
<p>22</p>			<p>普天間飛行場の地下には、</p>	<p>シマの基層 ・「水」を活用した土地利用</p>
<p>23</p>			<p>宜野湾に降る<sup>あまみず</sup>雨水が、琉球石灰岩層でろ過され、大山などから湧き出て西海岸へと流れる、</p>	
<p>24</p>			<p>水の道があります。</p>	

25			<p>かつての宜野湾や神山の集落には、多くの湧水(カー)がありました。</p>		
26			<p>生活用水としてはもとより、産湯や元旦に邪気を祓う若水などにも使われ、</p>		
27			<p>(同録) そこが昔のカー、</p>	<p>Na 水がわき出るところは、</p>	
28			<p>(同録) ウブガーがあるところ</p>	<p>Na 暮らしの安寧を祈る場所として、集落には欠かせないものでした。</p>	
29			<p>新しいまちには、このような先人達の「水を大切に作る暮らし方」から学び</p>		
30	<p>59 秒 / 4 分 36 秒</p>		<p>地下水を守るために、緑の空間を多くつくることなど、環境へ配慮した風景をイメージしてみました。</p>		
31			<p>飛行場の滑走路あたりは、平らに見えますが、実際は起伏があり</p>		<p>シマの基層 ・「地形」を活用した土地利用</p>

32			<p>緑の空間を上手に配置することで、風の流れをつくることができます。</p>	
33			<p>琉球王国時代の偉人、蔡温(さいおん)が広めた「風水地理」の知恵。</p> <p>北風を遮り冬は暖かく、夏は海風を取り込み涼しく過ごすまちづくりに学び、</p>	
34			<p>例えば、新しいまちにも、</p> <p>夏は、公園や緑地でつくられる、冷たい新鮮な空気を、風の道を通して送り込む、住宅地。</p>	
35	<p>50 秒 / 5 分 26 秒</p>		<p>エネルギー消費を抑え、暑い夏を快適に過ごす…。</p> <p>そんな環境と共生するまちをイメージしてみました。</p>	
36			<p>普天間飛行場内とその周辺に残っている緑。</p>	<p>シマの基層 ・「緑」活用した 土地利用</p>
37			<p>ここには、地形や土の性質にあった宜野湾特有の樹木が残っています。</p>	
38			<p>この森の中には、かつての宜野湾集落の信仰の聖地であった</p>	